

IV. まとめ

1. 医師偏在対策への政策的インプリケーション

今回のアンケート調査の結果から得られる政策的インプリケーションとして、例えば以下に示すような事項が考えられる。

【例1】

年齢階級が下がるほど女性医師の割合は高くなっており、出産・育児と長時間労働・夜間当直を両立させることは困難であるため、「院内保育所の整備」、「出産・育児後の復職支援」などの対策とともに、女性医師確保のためのワーク・ライフ・バランスに配慮した勤務体制の確立が望まれる。

【例2】

へき地勤務を義務づける奨学金について、同額のファンドを前提とした場合には、1人当たりの給付金額を増やすよりも、義務期間を短縮したうえで給付人数を増やす方がより有効であると考えられる。

【例3】

へき地の医療機関はプライマリ・ケアを担うことになることから、専門性を高めるよりもプライマリ・ケアに関心がある研修医に対して、総合医を養成する研修プログラムを整備し、地域医療の現場での研修も組入れるなど実践的なスキームを策定する必要がある。

【例4】

医師の職場選択の要因として、診療について相談できる医師がいること、学会や研修会への出席機会が保障されることが重視されることから、高度・専門的な診療の際に活用できる遠隔医療システムや学会・研修会出席の際の代診医派遣といった医師の支援体制を地域の医療機関の相互連携により整備することが、医師偏在の解消に有効であると考えられる。

2. 今後の課題

本編において、書面によるアンケート調査の第一段階の集計・分析結果を報告した。今後はインターネットによるアンケート調査の結果を加えて第二段階の集計・分析に進む予定であることから、以下に今後の課題を示す。

【課題1】

すでに信頼性の低い回答は無効票として除いており、信頼性の高いデータで集計・分析をおこなっていると考えている。今後は、データの信頼性の高さを確認して、明確なる根拠を示していくことが大切である。

例えば、希望する年収は現在の年収以上であると考えられることから、「現在の年収」と「希望する年収」のクロス集計をおこなった結果（図表 33）、予想どおり太枠で囲まれた部分に回答の99%が集中しており、データの信頼性の高さを確認することができたと考えている。

年収階級が「現在の年収」と「希望する年収」で同じだとする人よりも、「現在の年収」より高い年収階級を「希望する年収」とする人の方が多くなっている。

図表 34 希望する「年収」に関するデータの信頼性の確認

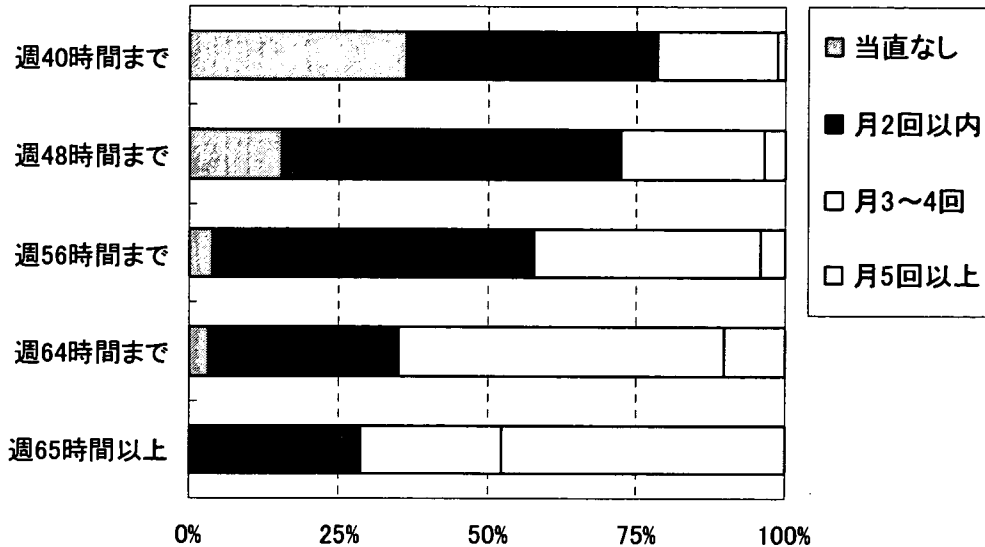
		希望する年収					
		1,000万円未満	1,000万円以上 1,250万円未満	1,250万円以上 1,500万円未満	1,500万円以上 1,750万円未満	1,750万円以上 2,000万円未満	2,000万円以上
現在の 年収	1,000万円未満	2.8 %	13.8 %	9.9 %	6.8 %	0.7 %	3.5 %
	1,000万円以上 1,250万円未満	-	2.2 %	8.3 %	9.6 %	2.8 %	6.1 %
	1,250万円以上 1,500万円未満	-	0.3 %	1.6 %	8.0 %	5.5 %	7.5 %
	1,500万円以上 1,750万円未満	0.1 %	-	0.3 %	2.0 %	2.6 %	3.3 %
	1,750万円以上 2,000万円未満	-	-	0.3 %	-	0.3 %	1.3 %
	2,000万円以上	-	-	-	-	-	0.4 %

【課題2】

基本属性の違いによる傾向の違いや、他の設問での回答内容の違いによる傾向の違いなどデータ間の関連性について分析をおこなう必要があると考えている。

例えば、図表 34 に示したとおり、長い勤務時間を許容できるグループの方が、より多くの当直回数を許容できる人の割合が多くなることから、勤務時間と当直回数との関連性がうかがえる。

図表 35 許容できる「1 週間の勤務時間」と「1 か月の当直回数」の関連性

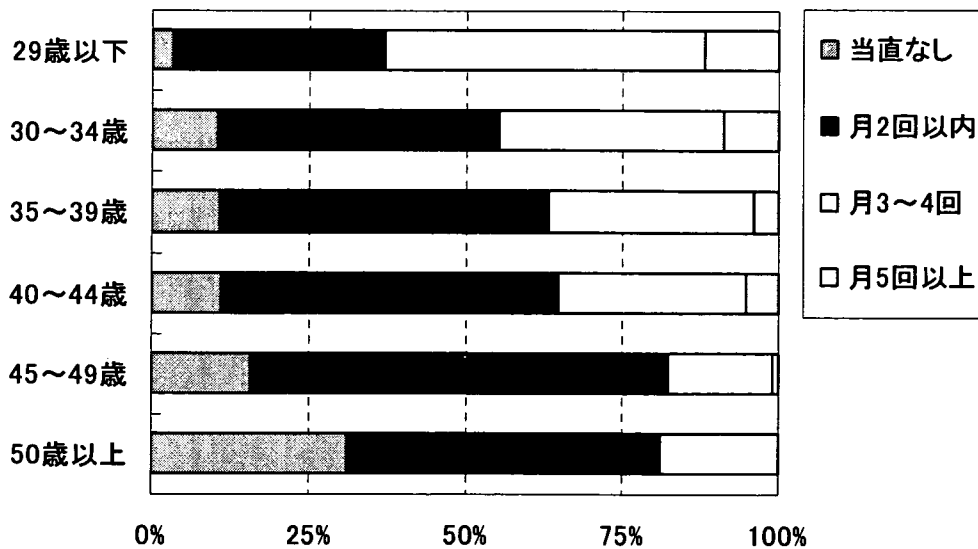


【課題 3】

基本属性の違いによる傾向の違いが明確な場合は、主要因となっている基本属性による調整をおこない、主要因以外の基本属性別に傾向の違いがあるか否かを分析する必要があると考えている。

例えば、図表 35 に示したとおり、年齢と許容できる「1 か月の当直回数」には相関があることがうかがえるので、許容できる「1 か月の当直回数」を性別で比較する際には、性別の年齢構成の違いを調整した後で比較する必要があると考えている。

図表 36 年齢階級別の許容できる「1 か月の当直回数」



参考文献・資料

- 1)厚生労働省、平成 18 年 医師・歯科医師・薬剤師調査
- 2)社団法人 日本病院会、勤務医に関する意識調査 報告書、2007
- 3)厚生労働省、「臨床研修に関する調査」報告のポイント、2006
- 4)国立保健医療科学院政策科学部、医師需給に係る医師の勤務状況調査、2006、
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/03/s0327-2c.html>
- 5)全国自治体病院協議会、自治体病院における医師不足状況実態調査結果、1999
- 6)自治医科大学地域医療白書編集委員会、地域医療白書 第 2 号、自治医科大学、2007
- 7)日本医療労働組合連合会、医師の労働実態調査、2007
http://www.irouren.or.jp/jp/html/menu6/pdf/070424ishi_jittai_tyosa_shiryō.pdf
- 8) Scott A, Eliciting GPs' preferences for pecuniary and non-pecuniary job characteristics, *Journal of Health Economics*, 20, 329-347, 2001.
- 9) Scott A, Watson SM, Ross S, Eliciting preferences of the community for out of hours care provided by general practitioners: a stated preference discrete choice experiment, *Social Science & Medicine*, 56, 803-814, 2003.
- 10) Wordsworth S, et al, Preferences for general practice jobs: a survey of principals and sessional GPs, *British Journal of General Practice*, 54, 740-746, 2004.
- 11)緒方泰子、他、看護師の就業場所の選好－訪問看護ステーション看護師を対象としたコンジョイント分析－、*医療経済研究*、19(3)、233-252、2008
- 12)真野俊樹、他、医師の進路選択に関する考察：開業志向に注目して、*医療と社会*、14(2)、85-102、2004
- 13)佐野洋史、岸田研作、医師の非金銭的インセンティブに関する実証研究、*季刊・社会保障研究*、40(2)、193-203、2004

医師の需給のあり方に関する研究（H19-政策-一般-012）

アンケート調査（勤務医票）

あなたの、現在の状況についてご回答ください。

I. 基本属性 【特に指定がない場合は、あてはまるもの1つに ○ をつけてください】	
(1) 年齢 【記入】	◆ 満 _____ 歳
(2) 性別	1. 男性 2. 女性
(3) 配偶者	1. いる（同居） 2. いる（別居） 3. いない
(4) こどもとの同居 【複数回答可】	1. 乳幼児期 2. 学齢期 3. 青年期以降 4. なし (0～4歳) (5～14歳) (15歳以上)
(5) 勤務先の規模	1. 500床未満の病院 2. 500床以上の病院 3. その他
(6) 勤務先の地域	1. 東京23区・政令市 2. 政令市以外の市 3. 郡・町・村
(7) 年収（課税前の額） ※複数の医療機関に勤めて いる場合は、合計額とする。	1. 1,000万円未満 2. 1,000万円以上 1,250万円未満 3. 1,250万円以上 1,500万円未満 4. 1,500万円以上 1,750万円未満 5. 1,750万円以上 2,000万円未満 6. 2,000万円以上
(8) 夜間当直回数	1. 当直なし 2. 月2回以内 3. 月3～4回 4. 月5回以上
(9) 臨床研修医への指導	1. 研修医を指導することがある 2. 研修医を指導することはない
(10) 専門とする診療科 【複数回答可】	
1. 内科 2. 呼吸器科 3. 消化器科 4. 循環器科 5. 小児科 6. 精神科 7. 外科 8. 整形外科 9. 産婦人科 10. 眼科 11. 皮膚科 12. 泌尿器科 13. 放射線科 14. 麻酔科 15. その他 (_____)	
(11) 医局	1. 所属している 2. 所属していないが 3. 所属していないし つながりが深い つながりも深くない
(12) 大学からの派遣	1. 派遣である 2. 派遣ではないが 3. 派遣ではないし つながりが深い つながりも深くない
(13) 親の職業（過去も含む） 【複数回答可】	1. 親が開業医 2. 親が勤務医 3. 親が医師以外 4. 医療従事者 の医療従事者 以外の職業
(14) 出身地	◆ もっともあてはまるもの1つを<記号表>から選んで記入 _____ 番
(15) 出身大学の所在地	◆ あてはまるもの1つを<記号表>から選んで記入 _____ 番
(16) 医局の所在地	◆ 医局に所属している場合のみ<記号表>から選んで記入 _____ 番
<記号表>	
01 北海道 02 青森 03 岩手 04 宮城 05 秋田 06 山形 07 福島 08 茨城 09 栃木 10 群馬 11 埼玉 12 千葉 13 東京 14 神奈川 15 新潟 16 富山 17 石川 18 福井 19 山梨 20 長野 21 岐阜 22 静岡 23 愛知 24 三重 25 滋賀 26 京都 27 大阪 28 兵庫 29 奈良 30 和歌山 31 鳥取 32 島根 33 岡山 34 広島 35 山口 36 徳島 37 香川 38 愛媛 39 高知 40 福岡 41 佐賀 42 長崎 43 熊本 44 大分 45 宮崎 46 鹿児島 47 沖縄 48 その他海外など	

あなたの 医師の偏在の現状あるいは対策についての考えをご回答ください。

Ⅱ - A. 現状あるいは対策について 【もっとも近いもの2つに ○ をつけてください】

(1) 医師がへき地での勤務を敬遠する理由は何だと考えますか。 【2つに○をつける】

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 過疎地であり高齢化が進んでいる | 2. 医師の家族がへき地勤務を嫌がる |
| 3. 不便で生活の場としての魅力が少ない | 4. 学会への参加や専門性を磨くのが難しい |
| 5. 診断や治療への助言等を受けるのが難しい | 6. 当直回数が多くなり休日が少なくなりそう |
| 7. 総合医としての教育や研修を十分受けてない | 8. 設備や医療機器が充実していないだろうから |
| 9. その他（具体的に： _____） | |

(2) へき地での医師不足の対策としてどれが有効であると考えますか。 【2つに○をつける】

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. 医学部入学において地域枠を設ける | 2. 奨学金をだしてへき地勤務を義務づける |
| 3. 派遣の際に公務員等の身分保障をあたえる | 4. 派遣後に有給の長期自主研修を保証する |
| 5. IT等を活用して診断・治療を支援する | 6. ローテーション勤務体制を確立する |
| 7. 最新の高度な医療機器を導入する | 8. 期限を明記して医師養成プログラムに組み込む |
| 9. 単身赴任しやすい住環境等を整備する | 10. へき地勤務にみあうように給与を手厚くする |
| 11. その他（具体的に： _____） | |

(3) 診療科間の医師偏在の対策としてどれが有効であると考えますか。 【2つに○をつける】

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 後期臨床研修で何らかの定員制を導入する | 2. 出産・育児後の再研修制度で復職を支援する |
| 3. 集約化や再編により十分な医師数を確保する | 4. 女性医師のために院内保育所などを整備する |
| 5. オープンシステムで地域の医師に開放する | 6. 医師やコメディカル等の業務範囲を見直す |
| 7. 無過失補償制度により訴訟リスクを低減する | 8. 医師不足の診療科を給与面で優遇する |
| 9. その他（具体的に： _____） | |

(4) 中堅勤務医の開業が増加している理由は何だと考えますか。 【2つに○をつける】

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 勤務時間や夜勤当直回数が多すぎる | 2. 期待される役割が多すぎる |
| 3. 人事面での処遇に不満がある | 4. リスクの大きい患者をみなくてよい |
| 5. 院長になって経営をしたい | 6. 開業したら所得が増える |
| 7. その他（具体的に： _____） | |

(5) 中堅勤務医の開業による医師不足対策としてどれが有効であると考えますか。 【2つに○をつける】

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 医師数を増やして余裕のある勤務体制にする | 2. 医師以外の人員を増やして医師をサポートする |
| 3. チーム医療により個人の負担を軽減する | 4. 損害賠償責任保険料を病院が負担する |
| 5. シフト勤務等の導入による連続勤務時間短縮 | 6. 中堅勤務医の給与を引き上げる |
| 7. その他（具体的に： _____） | |

あなたに経験がない場合でも、当事者であると想像してご回答ください。

(例えば、へき地への派遣候補になったと想像してご回答ください。)

II - B. 妥当と考える派遣年数等について【もっとも近いもの1つに○をつけてください】

(1) 派遣バンクに登録しており、元の職場に戻れることを前提にへき地に派遣されることになった場合、何年間で妥当と考えますか。

1. 半年間 2. 1年間 3. 2年間 4. 3年間 5. 5年間

(2) 国公立大に在籍していて、奨学金付与期間の1.5倍の期間へき地勤務を義務づけられる場合、奨学金として月額で最低いくらが妥当と考えますか。

1. 月10万円 2. 月15万円 3. 月20万円 4. 月25万円 5. 月30万円

(3) 奨学金でへき地勤務を義務づける場合、義務期間は付与期間の何倍が妥当と考えますか。

1. 0.5倍 2. 同じ期間 3. 1.5倍 4. 2倍 5. 2.5倍

あなたが、他の勤務先を探している状況を想像してご回答ください。

III. 勤務条件に対する希望や許容の範囲【もっとも近いもの1つに○をつけてください】

(1) 許容できる1週間の勤務時間(当直を除く)

1. 週40時間まで 2. 週48時間まで 3. 週56時間まで 4. 週64時間まで 5. 週65時間以上

(2) 許容できる1か月の夜勤当直回数

1. 当直なし 2. 月2回まで 3. 月4回まで 4. 月5回以上

(3) 許容できる1週間の呼び出し回数

1. 呼び出しなし 2. 週1回まで 3. 週4回まで 4. 週5回以上

(4) 許容できる1か月の委員会(勤務先で組織されているもの)への出席回数

1. 出席なし 2. 月2回まで 3. 月4回まで 4. 月5回以上

(5) 希望する年間の学会への参加回数

1. なくてよい 2. 年1回 3. 年2回 4. 年3~5回 5. 年6~10回 6. 年11回以上

(6) 希望する年間の研修会への参加回数

1. なくてよい 2. 年1回 3. 年2回 4. 年3~5回 5. 年6~10回 6. 年11回以上

(7) 希望する長期休暇の期間

1. なくてよい 2. 7日未満 3. 7~13日 4. 14~20日 5. 21日以上

(8) 希望する年収(賞与を含む課税前の額)

1. 年収1,000万円未満 2. 年収1,000万円以上 1,250万円未満
3. 年収1,250万円以上 1,500万円未満 4. 年収1,500万円以上 1,750万円未満
5. 年収1,750万円以上 2,000万円未満 6. 年収2,000万円以上

(9) 許容できる片道の通勤時間

1. 30分まで 2. 1時間まで 3. 1時間30分まで 4. 2時間まで 5. 2時間以上

あなたが、他の勤務先を探している状況を想像してご回答ください。

IV. 職場環境についての考え方 [もっとも考えに近い番号1つに ○ をつけてください]			
(1) 勤務先の所在地			
A : 自分の地元など、ゆかりのある地域がよい。	B : 自分が求められれば、地域や場所は関係ない。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い
(2) 地域住民との関係			
A : プライベートでも地域住民と触れ合えるような地域環境がよい。	B : プライベートに干渉されないような地域環境がよい。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い
(3) ワーク・ライフ・バランスへの配慮			
A : 医師という職業を選んだ以上、プライベートよりも仕事優先になることは仕方がない。	B : 仕事と家庭が両立できてこそ、医師としてもよい仕事ができると思う。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い
(4) 診療の内容			
A : プライマリ・ケアをになう職場がいい。	B : 専門領域において、稀な症例や難しい症例にあたる職場がいい。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い
(5) コメディカルとの協働			
A : コメディカルは、医師の言うことだけを実行するような職場環境がよい。	B : コメディカルも積極的に意見を言えるような職場環境がよい。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い
(6) 勤務先でのポスト			
A : 病院の経営や管理業務にもたずさわるポスト（医科長以上）を提示するところがよい。	B : もっぱら診療や治療に直接たずさわるポストを提示するところがよい。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い
(7) 施設・設備の充実度			
A : 標準的な医療機器が備わっていればよい。	B : 高度で最新の医療機器の導入に積極的な方がよい。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い
(8) 勤務先の経営状況			
A : おもに採算のとれる医療を行い、経営が安定しているところがよい。	B : 経営的に不採算な医療も積極的に行っているところがよい。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い

あなたが、他の勤務先を探している状況を想像してご回答ください。

V. 職場選択における要因の優先度合い

あなたは医療機関 A と医療機関 B から常勤医として来て欲しいと誘いを受けました。あなたは医療機関 A と医療機関 B の関係者と面談し、勤務条件について話し合いました。あなたは勤務条件が異なる医療機関 A と医療機関 B のうち、どちらを勤務先に選ぶかを決めなければなりません。

回答にあたっての注意点を読んでから、以下の質問 1～質問 8にお答えください。

回答にあたっての注意点

- ・質問の中で示す以外の勤務条件は、医療機関 A と医療機関 B で全て同じであると仮定します。
- ・質問は全部で 8 問あります。全ての質問にお答えください。
- ・質問 1、3、5、7 の医療機関 A と質問 2、4、6、8 の医療機関 B は、同じ勤務条件です。
- ・質問の中で網掛けしている勤務条件は、医療機関 A と医療機関 B で内容が同じものであり、網掛けしていない勤務条件は内容が異なるものです。
- ・全ての質問について、正しい答え、間違った答えというものはありません。

質問 1：あなたはどちらの医療機関を勤務先を選びますか？

勤務条件

- ・1週当たり勤務時間
(月曜～土曜・宿直時間を除く)
- ・診療について相談できる医師の存在
- ・1ヶ月当たり夜間宿直回数
- ・学会や研修会への出席
- ・医療機関の規模
- ・立地場所
- ・年間給与額

医療機関A
60時間
相談できる医師がいる
2回
可能だが休暇扱い
200床以下の中小病院
中小都市 (人口3～30万人程度)
今の職場と変わらない

医療機関B
40時間
相談できる医師がいる
0回
不可(欠勤扱い)
200床以下の中小病院
中小都市 (人口3～30万人程度)
今の職場より450万円減る

医療機関 A がよい

医療機関 B がよい

どちらかの箱に○をつけてください

質問 2：あなたはどちらの医療機関を勤務先選びますか？

勤務条件

- ・1週当たり勤務時間
(月曜～土曜・宿直時間を除く)
- ・診療について相談できる医師の存在
- ・1ヶ月当たり夜間宿直回数
- ・学会や研修会への出席
- ・医療機関の規模
- ・立地場所
- ・年間給与額

医療機関A
60時間
相談できる医師がいない
0回
出張扱いで可能
500床以上の大病院
中小都市 (人口3～30万人程度)
今の職場より450万円増える

医療機関B
60時間
相談できる医師がいる
2回
可能だが休暇扱い
200床以下の中小病院
中小都市 (人口3～30万人程度)
今の職場と変わらない

医療機関 A がよい

医療機関 B がよい

どちらかの箱に○をつけてください

質問 3：あなたはどちらの医療機関を勤務先選びますか？

勤務条件

- ・1週当たり勤務時間
(月曜～土曜・宿直時間を除く)
- ・診療について相談できる医師の存在
- ・1ヶ月当たり夜間宿直回数
- ・学会や研修会への出席
- ・医療機関の規模
- ・立地場所
- ・年間給与額

医療機関A
60時間
相談できる医師がいる
2回
可能だが休暇扱い
200床以下の中小病院
中小都市 (人口3～30万人程度)
今の職場と変わらない

医療機関B
40時間
相談できる医師がいる
0回
不可(欠勤扱い)
診療所 へき地 (山間地・離島・過疎地など)
今の職場と変わらない

医療機関 A がよい

医療機関 B がよい

どちらかの箱に○をつけてください

質問 4：あなたはどちらの医療機関を勤務先を選びますか？

勤務条件

- ・1週当たり勤務時間
(月曜～土曜・宿直時間を除く)
- ・診療について相談できる医師の存在
- ・1ヶ月当たり夜間宿直回数
- ・学会や研修会への出席
- ・医療機関の規模
- ・立地場所
- ・年間給与額

医療機関A
40時間
相談できる医師がいる
4回
可能だが休暇扱い
診療所
中小都市 (人口3～30万人程度)
今の職場より450万円増える

医療機関B
60時間
相談できる医師がいる
2回
可能だが休暇扱い
200床以下の中小病院
中小都市 (人口3～30万人程度)
今の職場と変わらない

医療機関 A がよい

医療機関 B がよい

どちらかの箱に○をつけてください

質問5：あなたはどちらの医療機関を勤務先に選びますか？

勤務条件

- ・1週当たり勤務時間
(月曜～土曜・宿直時間を除く)
- ・診療について相談できる医師の存在
- ・1ヶ月当たり夜間宿直回数
- ・学会や研修会への出席
- ・医療機関の規模
- ・立地場所
- ・年間給与額

医療機関A
60時間
相談できる医師がいる
2回
可能だが休暇扱い
200床以下の中小病院
中小都市 (人口3～30万人程度)
今の職場と変わらない

医療機関B
40時間
相談できる医師がいる
2回
出張扱いで可能
診療所
大都市 (人口50万人以上)
今の職場と変わらない

医療機関 A がよい

医療機関 B がよい

どちらかの箱に○をつけてください

質問6：あなたはどちらの医療機関を勤務先に選びますか？

勤務条件

- ・1週当たり勤務時間
(月曜～土曜・宿直時間を除く)
- ・診療について相談できる医師の存在
- ・1ヶ月当たり夜間宿直回数
- ・学会や研修会への出席
- ・医療機関の規模
- ・立地場所
- ・年間給与額

医療機関A
60時間
相談できる医師がいる
0回
出張扱いで可能
診療所
大都市 (人口50万人以上)
今の職場より450万円減る

医療機関B
60時間
相談できる医師がいる
2回
可能だが休暇扱い
200床以下の中小病院
中小都市 (人口3～30万人程度)
今の職場と変わらない

医療機関 A がよい

医療機関 B がよい

どちらかの箱に○をつけてください

質問7：あなたはどちらの医療機関を勤務先に選びますか？

勤務条件

- ・1週当たり勤務時間
(月曜～土曜・宿直時間を除く)
- ・診療について相談できる医師の存在
- ・1ヶ月当たり夜間宿直回数
- ・学会や研修会への出席
- ・医療機関の規模
- ・立地場所
- ・年間給与額

医療機関A
60時間
相談できる医師がいる
2回
可能だが休暇扱い
200床以下の中小病院
中小都市 (人口3～30万人程度)
今の職場と変わらない

医療機関B
40時間
相談できる医師がいない
2回
出張扱いで可能
200床以下の中小病院
へき地 (山間地・離島・過疎地など)
今の職場より450万円増える

医療機関 A がよい

医療機関 B がよい

どちらかの箱に○をつけてください

質問 8 : あなたはどちらの医療機関を勤務先選びますか？

勤務条件

- ・1週当たり勤務時間
(月曜～土曜・宿直時間を除く)
- ・診療について相談できる医師の存在
- ・1ヶ月当たり夜間宿直回数
- ・学会や研修会への出席
- ・医療機関の規模
- ・立地場所
- ・年間給与額

医療機関A
80時間
相談できる医師がいる
4回
出張扱いで可能
200床以下の中小病院
へき地 (山間地・離島・過疎地など)
今の職場より450万円減る

医療機関B
60時間
相談できる医師がいる
2回
可能だが休暇扱い
200床以下の中小病院
中小都市 (人口3～30万人程度)
今の職場と変わらない

医療機関 A がよい

医療機関 B がよい

どちらかの箱に○をつけてください

～ 差し支えない場合は、以下の設問にもご回答ください ～

あなたは現在の診療科での勤務をつづけたいですか。 [該当する番号に ○ をつけてください]	
1. 可能であれば他の診療科に移りたい	2. 現在の診療科でつづけたい
3. なんとも言えない	
「1. 可能であれば他の診療科に移りたい」を選んだ場合のみ、その理由をご記入ください。	
理由：	

～ ご協力いただき誠にありがとうございました ～

ご意見がございましたらご自由にご記入ください。

医師の需給のあり方に関する研究（H19-政策-一般-012）

アンケート調査（研修医票）

あなたの 医師の偏在の現状あるいは対策についての考えをご回答ください。

II - A. 現状あるいは対策について 【もっとも近いもの2つに○をつけてください】

(1) 医師がへき地での勤務を敬遠する理由は何だと考えますか。 【2つに○をつける】

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 過疎地であり高齢化が進んでいる | 2. 医師の家族がへき地勤務を嫌がる |
| 3. 不便で生活の場としての魅力が少ない | 4. 学会への参加や専門性を磨くのが難しい |
| 5. 診断や治療への助言等を受けるのが難しい | 6. 当直回数が多くなり休日が少なくなりそう |
| 7. 総合医としての教育や研修を十分受けてない | 8. 設備や医療機器が充実していないだろうから |
| 9. その他（具体的に： _____） | |

(2) へき地での医師不足の対策としてどれが有効であると考えますか。 【2つに○をつける】

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. 医学部入学において地域枠を設ける | 2. 奨学金をだしてへき地勤務を義務づける |
| 3. 派遣の際に公務員等の身分保障をあたえる | 4. 派遣後に有給の長期自主研修を保証する |
| 5. IT等を活用して診断・治療を支援する | 6. ローテーション勤務体制を確立する |
| 7. 最新の高度な医療機器を導入する | 8. 期限を明記して医師養成プログラムに組込む |
| 9. 単身赴任しやすい住環境等を整備する | 10. へき地勤務にみあうように給与を手厚くする |
| 11. その他（具体的に： _____） | |

(3) 研修医が診療科を選ぶ理由は何だと考えますか。 【2つに○をつける】

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 臨床研修で臨床的興味をもった | 2. 医学領域として学問的興味がある |
| 3. 自分に合っていて長く勤まりそう | 4. いい指導医や先輩に出会った |
| 5. 医療事故や訴訟などのリスクが少ない | 6. 収入がよく勤務先も見つかりやすい |
| 7. その他（具体的に： _____） | |

(4) 診療科間の医師偏在の対策としてどれが有効であると考えますか。 【2つに○をつける】

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 後期臨床研修で何らかの定員制を導入する | 2. 出産・育児後の再研修制度で復職を支援する |
| 3. 集約化や再編により十分な医師数を確保する | 4. 女性医師のために院内保育所などを整備する |
| 5. オープンシステムで地域の医師に開放する | 6. 医師やコメディカル等の業務範囲を見直す |
| 7. 無過失補償制度により訴訟リスクを低減する | 8. 医師不足の診療科を給与面で優遇する |
| 9. その他（具体的に： _____） | |

あなたに経験がない場合でも、当事者であると想像してご回答ください。

(例えば、奨学金を付与されていると想像してご回答ください。)

Ⅱ - B. 妥当と考える派遣年数等について【もっとも近いもの1つに○をつけてください】

(1) 医学部入学の地域枠^{*}は定員の何割程度が妥当と考えますか。

1. なくていい 2. 1割 3. 2割 4. 3割 5. 4割以上

(2) 国公立大に在籍していて、奨学金付与期間の1.5倍の期間へき地勤務を義務づけられる場合、奨学金として月額で最低いくらが妥当と考えますか。

1. 月10万円 2. 月15万円 3. 月20万円 4. 月25万円 5. 月30万円

(3) 奨学金でへき地勤務を義務づける場合、義務期間は付与期間の何倍が妥当と考えますか。

1. 0.5倍 2. 同じ期間 3. 1.5倍 4. 2倍 5. 2.5倍

※「地域枠」とは、医学部の入学者選抜における地元出身者のための入学枠であり、推薦入学としている場合が多い。

あなたが、勤務先を探している状況を想像してご回答ください。

Ⅲ. 勤務条件に対する希望や許容の範囲【もっとも近いもの1つに○をつけてください】

(1) 許容できる1週間の勤務時間(当直を除く)

1. 週40時間まで 2. 週48時間まで 3. 週56時間まで 4. 週64時間まで 5. 週65時間以上

(2) 許容できる1か月の夜勤当直回数

1. 当直なし 2. 月2回まで 3. 月4回まで 4. 月5回以上

(3) 許容できる1週間の呼び出し回数

1. 呼び出しなし 2. 週1回まで 3. 週4回まで 4. 週5回以上

(4) 希望する年間の学会への参加回数

1. なくてよい 2. 年1回 3. 年2回 4. 年3~5回 5. 年6~10回 6. 年11回以上

(5) 希望する長期休暇の期間

1. なくてよい 2. 7日未満 3. 7~13日 4. 14~20日 5. 21日以上

(6) 希望する年収(賞与を含む課税前の額)

1. 年収1,000万円未満 2. 年収1,000万円以上 1,250万円未満
3. 年収1,250万円以上 1,500万円未満 4. 年収1,500万円以上 1,750万円未満
5. 年収1,750万円以上 2,000万円未満 6. 年収2,000万円以上

あなたが、勤務先を探している状況を想像してご回答ください。

IV. 職場環境についての考え方 [もっとも考えに近い番号1つに ○ をつけてください]			
(1) 勤務先の所在地			
A : 自分の地元など、ゆかりのある地域がよい。	B : 自分が求められれば、地域や場所は関係ない。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い
(2) 地域住民との関係			
A : プライベートでも地域住民と触れ合えるような地域環境がよい。	B : プライベートに干渉されないような地域環境がよい。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い
(3) ワーク・ライフ・バランスへの配慮			
A : 医師という職業を選んだ以上、プライベートよりも仕事優先になることは仕方がない。	B : 仕事と家庭が両立できてこそ、医師としてもよい仕事ができると思う。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い
(4) 診療の内容			
A : プライマリ・ケアをになう職場がいい。	B : 専門領域において、稀な症例や難しい症例にあたる職場がいい。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い
(5) コメディカルとの協働			
A : コメディカルは、医師の言うことだけを実行するような職場環境がよい。	B : コメディカルも積極的に意見を言えるような職場環境がよい。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い
(6) 勤務先でのポスト			
A : 病院の経営や管理業務にもたずさわるポスト（医科長以上）を提示するところがよい。	B : もっぱら診療や治療に直接たずさわるポストを提示するところがよい。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い
(7) 施設・設備の充実度			
A : 標準的な医療機器が備わっていればよい。	B : 高度で最新の医療機器の導入に積極的な方がよい。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い
(8) 勤務先の経営状況			
A : おもに採算のとれる医療を行い、経営が安定しているところがよい。	B : 経営的に不採算な医療も積極的に行っているところがよい。		
1. 非常にAに近い	2. ややAに近い	3. ややBに近い	4. 非常にBに近い

あなたが、勤務先を探している状況を想像してご回答ください。

V. 職場選択における要因の優先度合い

あなたは医療機関 A と医療機関 B から常勤医として来て欲しいと誘いを受けました。あなたは医療機関 A と医療機関 B の関係者と面談し、勤務条件について話し合いました。あなたは勤務条件が異なる医療機関 A と医療機関 B のうち、どちらを勤務先に選ぶかを決めなければなりません。

回答にあたっての注意点を読んでから、以下の質問 1～質問 6 にお答えください。

回答にあたっての注意点

- ・質問の中で示す以外の勤務条件は、医療機関 A と医療機関 B で全て同じであると仮定します。
- ・質問は全部で 6 問あります。全ての質問にお答えください。
- ・質問 1、3、5 の医療機関 A と質問 2、4、6 の医療機関 B は、同じ勤務条件です。
- ・質問の中で網掛けしている勤務条件は、医療機関 A と医療機関 B で内容が同じものであり、網掛けしていない勤務条件は内容が異なるものです。
- ・全ての質問について、正しい答え、間違った答えというものはありません。

質問 1：あなたはどちらの医療機関を勤務先に選びますか？

勤務条件

- ・1週当たり勤務時間
(月曜～土曜・宿直時間を除く)
- ・診療について指導できる医師の存在
- ・1ヶ月当たり夜間宿直回数
- ・学会や研修会への出席
- ・医療機関の規模
- ・立地場所
- ・年間給与額

医療機関A
60時間
指導してくれる医師がいる
2回
可能だが休暇扱い
200床以下の中小病院
中小都市 (人口3～30万人程度)
600万円

医療機関B
60時間
指導してくれる医師がいる
4回
不可(欠勤扱い)
200床以下の中小病院
大都市 (人口50万人以上)
2000万円

医療機関 A がよい

医療機関 B がよい

どちらかの箱に○をつけてください

質問 2：あなたはどちらの医療機関を勤務先選びますか？

勤務条件

- ・1週当たり勤務時間
(月曜～土曜・宿直時間を除く)
- ・診療について指導できる医師の存在
- ・1ヶ月当たり夜間宿直回数
- ・学会や研修会への出席
- ・医療機関の規模
- ・立地場所
- ・年間給与額

医療機関A
40時間
指導してくれる医師がいない
2回
出張扱いで可能
200床以下の中小病院
へき地 (山間地・離島・過疎地など)
2000万円

医療機関B
60時間
指導してくれる医師がいる
2回
可能だが休暇扱い
200床以下の中小病院
中小都市 (人口3～30万人程度)
600万円

医療機関 A がよい

医療機関 B がよい

どちらかの箱に○をつけてください

質問 3：あなたはどちらの医療機関を勤務先選びますか？

勤務条件

- ・1週当たり勤務時間
(月曜～土曜・宿直時間を除く)
- ・診療について指導できる医師の存在
- ・1ヶ月当たり夜間宿直回数
- ・学会や研修会への出席
- ・医療機関の規模
- ・立地場所
- ・年間給与額

医療機関A
60時間
指導してくれる医師がいる
2回
可能だが休暇扱い
200床以下の中小病院
中小都市 (人口3～30万人程度)
600万円

医療機関B
40時間
指導してくれる医師がいる
2回
出張扱いで可能
診療所
大都市 (人口50万人以上)
600万円

医療機関 A がよい

医療機関 B がよい

どちらかの箱に○をつけてください

質問 4：あなたはどちらの医療機関を勤務先選びますか？

勤務条件

- ・1週当たり勤務時間
(月曜～土曜・宿直時間を除く)
- ・診療について指導できる医師の存在
- ・1ヶ月当たり夜間宿直回数
- ・学会や研修会への出席
- ・医療機関の規模
- ・立地場所
- ・年間給与額

医療機関A
40時間
指導してくれる医師がいる
0回
不可(欠勤扱い)
200床以下の中小病院
へき地 (山間地・離島・過疎地など)
600万円

医療機関B
60時間
指導してくれる医師がいる
2回
可能だが休暇扱い
200床以下の中小病院
中小都市 (人口3～30万人程度)
600万円

医療機関 A がよい

医療機関 B がよい

どちらかの箱に○をつけてください